

東レグループのサステナビリティへの取り組み

2025年9月3日にIRセミナーを開催し、東レ(株) 上席執行役員・サステナブル経営推進室 室長・畑慎一郎、サステナブル経営推進室 サステナブル事業戦略グループ グループリーダー・勅使川原ゆりこが説明を行いました。

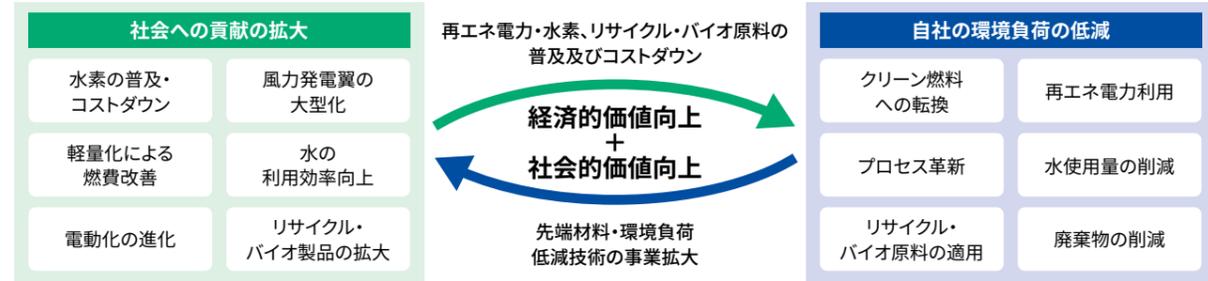


サステナビリティ関連事業の取り組み

東レグループは、事業を通じた「社会への貢献の拡大」と「自社の環境負荷低減」が相互に好循環を生み出し、経済的価値及び社会的価値の向上につなぐと考へ、2018年に制定した「東レグループ サステナビリティ・ビジョン」実現に向けた取り組みを推進しています。そうした中、2010年代からサス

テナビリティイノベーション(SI) 事業(旧グリーンイノベーション(GR) 及びライフイノベーション(LI) 事業)を展開しており、着実に拡大し、2024年度の同事業の売上収益は1.4兆円、全体の5割以上に成長しました。

事業を通じた社会への貢献拡大と自社の環境負荷低減活動が、相互の価値好循環を生み出す



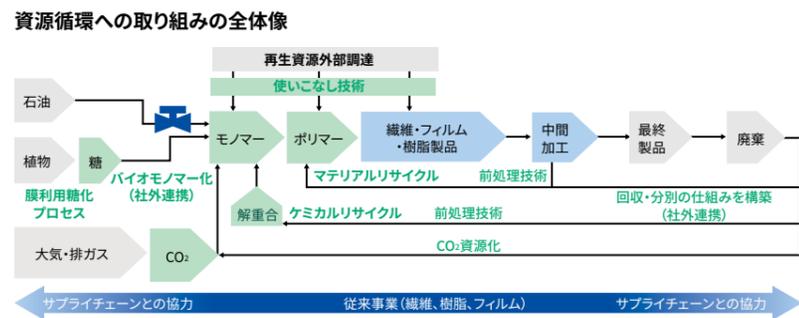
資源循環への取り組み

資源循環の分野では、繊維・フィルム・樹脂製品に使用している化石資源由来の原料をマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルした原料、更にはバイオマス由来原料への転換を進めており、材料開発だけでなく自社でのプロセス開発や使いこなし技

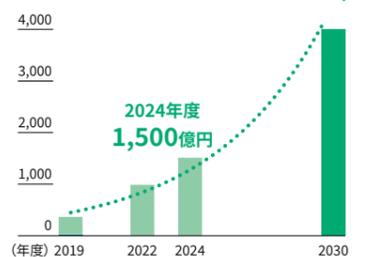
術の開発、サプライチェーン再構築を進めています。また、将来的にはCO₂そのものを資源化することも視野に入れています。資源循環に関連する事業の売上収益は2024年度に1,500億円を超えており、2030年には4,000億円規模を目指しています。

2030年度目標 「持続可能な循環型の資源利用と生産に貢献する製品」の売上収益目標 **4,000億円**

基幹ポリマーの再生資源等使用比率*目標 **20%**



持続可能な循環型の資源利用と生産に貢献する製品の売上収益推移(億円)



環境負荷低減への取り組み

環境負荷低減を全社プロジェクト体制で推進する「チャレンジ50+プロジェクト」では、GHG排出量、用水使用量の削減を2030年までに2013年比50%以上削減するという高い目標を掲げています。事業拡大を図りつつも、高効率化と高付加価値化を追求し、売上収益当たりのGHG排出量や用水使用量を着実に減らしています。また、Scope3の削減も進めており、最も多いカテゴリ-1の削減をサプライヤーと連携し、低カーボンフットプリント原料への転換を進めています。更

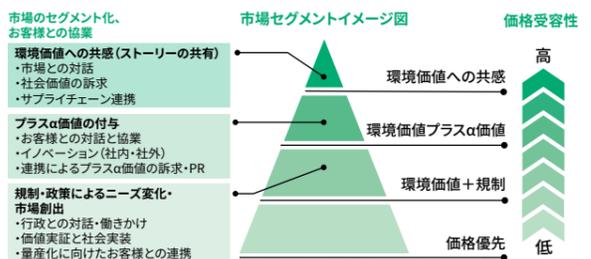
に、生物多様性や自然資本の保全・回復に向けた「ネイチャーポジティブ」への取り組みを通じて、水の利用率向上など環境負荷低減の活動を広げています。

チャレンジ50+プロジェクト:目標

| | | |
|--------------------------|----------------------|-------------------------|
| 東レグループ全体のGHG排出量の売上収益原単位を | 東レグループのうち日本国内GHG排出量を | 東レグループ全体の用水使用量の売上収益原単位を |
| 50%以上削減 | 40%以上削減 | 50%以上削減 |

環境価値の経済価値転換

サステナビリティ活動に伴うコストアップと環境価値を市場やお客様に認めていただき、それらを経済価値に変えることが重要な課題となっています。環境価値の価格受容性によってセグメンテーションし、お客様と協業することで環境価値を経済価値に転換する仕組みづくりに注力しています。



1. 環境価値への共感

バイオマス由来の原料で化石資源と同等の性能を実現する東レの技術力と、それによる環境価値が高く評価され、(株)吉田のカバンブランドタンカー®に100%植物由来ナイロン510繊維が採用されました。

2. 環境価値プラスα価値

& +αは、回収PETボトルをマテリアルリサイクルした糸や、廃漁網をケミカルリサイクルした糸に、東レ独自の異形断面口金技術及びナノスケールで制御する超精密複合紡糸技術を組み合わせることで、環境価値に快適さや機能性などプラスαの価値を付与しています。

3. 環境価値+規制

欧州のELV(廃自動車) 規則案への対応のため、自動車部品をリサイクルするべく、亜臨界水を用いたケミカルリサイクルの研究開発を進めています。また、水素関連事業には草創期から関わっており、高圧水素ガスタンク、燃料電池システム、水電解システム等への製品供給に注力しています。欧州・中国が行政主導で水素市場をけん引する中、様々なサプライチェーンに入りこみ、規制・政策を一つのドライブとした環境価値の創出を目指しています。

2030年、更にその先に向けた取り組み

東レグループは今後も、風力発電翼の大型化や、水素への転換、リサイクル・バイオや水の利用率向上など様々な課題を、素材の力とイノベーションにより、収益性を確保しつつ、世界の「発展」と「持続可能性」の両立に挑戦していきます。

| 手段 | 課題 | 東レのイノベーション | 2030年 | 2040年 | 2050年 |
|------------|---------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------|--------------------------------|
| GHG排出量削減 | 風力発電翼の大型化 | 発電翼の軽量化・高強度化 | ラージトウ炭素繊維 | 主力電源化 | |
| | 水素への転換 | 水電解の高効率化 | 電解質膜 電極基材 隔膜 タンク用炭素繊維 | 本格普及 | |
| | CCSに向けたCO ₂ 除去 | CO ₂ 分離性能の向上 | 気体分離膜 | ブルー水素 | |
| 資源循環 | リサイクルの推進 | リサイクル対象の拡大 | 分離・精製技術 亜臨界法解重合技術 | 高機能化 水素細菌 | マテリアルリサイクル |
| | 非可食バイオマス原料利用 | バイオケミカルプロセスの効率化 | 膜利用糖化プロセス 酵素技術 | | ケミカルリサイクル |
| ネイチャーポジティブ | 水の利用率向上 | 適用の拡大 造水量・耐久性向上 | 水処理膜の高性能化 | | カーボンリサイクル(CO ₂ 資源化) |
| | | | | | 化石資源依存脱却 |
| | | | | | 水の再利用市場拡大 |